

**中学校第1学年 外国語科学習指導案**  
**単元名：Program 5 国際フードフェスティバル**

指導者 熊野町立熊野中学校 教諭 島本さゆり  
 ALT Javine Antonio

- 1 日 時 平成26年7月2日(水) 5校時  
 2 場 所 1年1組教室  
 3 学年・学級 第1学年1組(31名 男子13名 女子18名)

### 教科に関する調査分析

#### 課題となる設問

平成26年度「基礎・基本」定着状況調査より

5 次の会話文の〔 〕内の語を並べ替えて、会話文を完成させなさい。

- 1 A: Ken, [ your / this / is ] bike?  
 B: Yes, it is. I use it every day.  
 A: Oh, I see.

#### 【出題の趣旨】

正しい語順を用いて、be動詞の疑問文を構成する知識を身に付けている。

#### 【学習指導要領の内容・領域】

書くことエ(イ)

	通過率
本校	95.3%
広島県	

記号		解答類型	本校(%)
1	○	is this your	93.4%
2	△	類型1において、大文字・小文字の誤りが1か所ある。	1.9%
3	△	類型1において、つづりの誤りが1か所ある。	0%
4	×	this is your	1.9%
5	×	is your this	0.9%
6	×	this your is, your is this, your this is	0.9%
7	×	類型1において、語順はあっているが、大文字・小文字の誤りやつづりのあやまりが2か所ある。	0
8	×	語順がまちがっており、大文字・小文字の誤りやつづりの誤りがある。	0.9%
9	×	上記以外の解答	0%
0	—	無解答	0%

#### この問題を解くために必要な力

- be動詞の疑問文の作り方を理解し、正しく書く力

#### 誤答分析

- 解答類型2  
isが大文字になっている。あるいは、yourがyouになっている。
- 解答類型4について  
Kenの後のカンマを見落としていたと思われる。
- 解答類型8について  
Is your this になっている。

## 課題となる設問

平成 26 年度 第 1 学年 1 学期期末試験

- 9 次の文を（ ）内の指示にしたがって書きかえなさい。  
(2) You are Ms. Wood. (疑問文にしなさい)

### 【出題の趣旨】

正しい語順を用いて、be 動詞の疑問文を構成する知識を身に付けている。

### 【学習指導要領の内容・領域】

書くことエ（イ）

	通過率
本校	82.1%

記号		解答類型	本校（28人）
1	○	Are you Ms. Wood?	14
2	△	? がない	5
3	△	are you Ms. Wood?	1
4	△	Are you ms. Wood.	3
5	×	Do you are Wood?	2
6	×	What do you are Ms. Wood?	1
7	×	You a Ms. Wood.	1
8	×	Do you a Ms. Wood?	1
9	×	上記以外の解答	0
0	—	無解答	0

### この問題を解くために必要な力

- be 動詞の疑問文の作り方を理解し、正しく書く力

### 誤答分析

- be 動詞と一般動詞の疑問文の作り方が混在している。
- What do you～? を学習したため、この英文と be 動詞が混在している。

## 調査結果からみる課題

### 【課題となる力】

- be 動詞の疑問文のつく方を理解し、正しく書く力

### 【指導上の課題】

- be 動詞と一般動詞の区別ができていない。
- be 動詞の疑問文のルールを理解できていない。
- 英文のルールにしたがって、正しく英文を書くことができない。

## 指導改善のポイント

- ペアや4人班の活用することで、学習意欲を持たせたり、相手意識を持たせたりする。
- This is / That is の疑問文・否定文を繰り返し練習させる。  
(チャンツ・ペア音読やウルトラマンライティング)
- 絵や実物を使って、Where is ~? It is~.を繰り返し練習させる。
- 気持ちや状況を考えさせて、音読練習をさせる。
- 実際に、自分が好きな有名人や先生・友だち等についての紹介文を書くことにより、This / He/ She の使い方を理解させる。

## 小中の連携

### (1) 外国語活動・英語の目標

小学校	「話すこと」「聞くこと」を中心に活動させ、積極的にコミュニケーションを行おうとする素地を育成する。
中学校	英語の文法事項を丁寧に指導し、英語を話したり書いたりする活動を行なう中で、コミュニケーション能力の基礎を育成する。そして、特に、つながりのある文章を書けるように指導する。

### (2) 共通の取組

- ①コミュニケーションの目標カードを小中学校で使用する。
- ②積極的に英語を聞いたり、話したりできるように活動を仕組む。
- ③クラスルームイングリッシュを積極的に使用する。
- ④ALTや友だちの会話に反応するように指導する。(OK. Really? Oh, I see. Good! Great! Sorry. That's right. Me too. など)

## 単元について

この単元では、中学生が実際に体験しそうな「国際フードフェスティバル」に行き、その後、インド出身の友人の家をたずねる設定になっている。そして、国際理解、異文化理解、グローバル社会の視点が盛り込まれている。

この単元までに、Program 2では、be動詞を使って自分のことを表現する文章(I am～)を習い、Program 3では、一般動詞を習った。生徒たちは、自分の名前と好きなものやスポーツなどを表現できるようになってきている。

そこで、この単元では、This / That / He / She is～を理解させ、Is this / that / he / sheを使って、質問をしたり答えたりさせていく。そして、単元の最後には、自分が好きな有名人や先生・友だち等についての紹介文を3文で書くことを目標とする。そして、My Project 2につなげていき、英語で表現する能力と積極的に相手に伝えようとする態度を育成していく。

## 生徒実態

1年1組の生徒は、何事にも意欲的な生徒が多く、ペア活動や音読などを意欲的に取り組む。また、多くの生徒がALTの言葉をよく聞き、反応する。6月25日に行なった生徒アンケートでは、「英語の勉強が好き」と肯定的に答えた1年1組の生徒は93% (4月93%)、「英語の勉強は楽しい」と肯定的に答えた生徒は100% (4月89%)だった。また、「英語で自分の思いを話すことは好きです」と肯定的に答えた生徒は、4月68%から6月は79%、「友だちと英語で会話することは好きです」と肯定的に答えた生徒は、4月79%から6月86%になった。授業の中で、自分の思いを英語で話す場面を多く設けているため、生徒の意識も変わってきている。

しかし、今回の期末試験で男子に英語が苦手な生徒が多いことがわかった。(男子平均60点 女子81点) 徐々に英語がわからなくなっている生徒が増えているため、手だてを考えながら指導していく必要がある。

## 単元の目標

- (1) 上手くかけないところがあっても知っている表現を使って書き続ける。
- (2) 自分が好きな有名人や先生・友だち等についての紹介文を3文で書く。  
例: This is Ichiro. He is a baseball player. He is cool.
- (3) 気持ちや状況を表現できるように音読する。
- (4) This is～. That is～.の文構造を理解する。
- (5) 疑問詞Whereを用いた疑問文の構造を理解する。
- (6) He (She)…の文構造を理解する。

## 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
① 上手く書けない所があっても知っている表現を用いて書き続けている。 ② 紹介文の発表では、相手意識をもち、前を向いて堂々と発表することができる。	① 自分が好きな有名人や先生・友だち問うについての紹介文を3文で書くことができる。 ② 気持ちや状況を表現できるように音読することができる。	この單元では評価しない。	① be 動詞の用法についての知識を身に付けている。 ② 疑問詞 <b>where</b> の疑問文とその答え方の知識を身に付けている。 <b>He, she</b> の用法についての知識を身に付けている。

## 指導と評価の計画

(全7時間)

次	学習内容 (時数)	単元の評価規準	評価方法
一	○be 動詞 is の用法を理解する。 (This/ That is~. Is that~? Yes, it is. No, it isn't.) ・P50「おぼえよう！ (ペア基本文)」を音読する。 ・This/ That is~. Is that~? Yes, it is. No, it isn't.を練習する。 ・単語や語句の意味を知る。 ・Is this ~?を使ったゲームをする。(これきみの？ビンゴ) ・P50 のリスニングをする。	エの①	行動観察 後日ペーパーテスト
二	○P51 の本文を理解して音読をする。 ・P51 の英文の内容を把握する ・P51 の英文の場面や気持ちを考える。 ・P51 の本文を音読する。 <span style="float: right;">【本時】</span>	イの②	後日音読テスト
三	○疑問詞 where の疑問文とその答え方を理解する。 ・P52「おぼえよう！ (ペア基本文)」を音読する。 ・Where ~?の質問の仕方と答え方を練習する。 ・単語や語句の意味を知る。 ・P52 のリスニングをする。	エの②	行動観察 後日ペーパーテスト
四	○P53 の本文を理解する。 ・P53 の英文の内容を把握する。 ・P53 の英文の場面や気持ちを考える。 ・P53 の本文を音読する。	イの②	後日音読テスト
五	○He, she の用法を理解する。 ・P54「おぼえよう！ (ペア基本文)」を音読する。 ・He/ She is~. Is he / she~? Yes, he is. No, he isn't.を練習する。 ・単語や語句の意味を知る。 ・P54 のリスニングをする。	エの③	行動観察 後日ペーパーテスト
六	○P55 の本文を理解する。 ・P55 の英文の内容を把握する。 ・P55 の英文の場面や気持ちを考える。 ・P55 の本文を音読する。	イの②	後日音読テスト

七	○自分が好きな有名人や先生・友だち等についての紹介文を3文で書く。 ・4人班で発表をする。	アの①②	作品 発表の観察
---	--	------	-------------

## 本時の学習

- (1) 本時の目標  
P51の内容を理解し、音読の方法を考えて音読することができる。
- (2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項 ★支援を要する生徒への手立て	評価規準	評価方法
○ベルトレーニング (ワードマラソン6)			
<b>1 帯学習</b>			
○あいさつ (全体・ペア)  ○Chants ○ワードマラソン (ペア)	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的に活動させるために、それぞれの活動前に目標を示し、活動後に評価をする。</li> <li>短時間でテンポよく行う。</li> <li>アイコンタクト, smile, Good voice で会話を続けるようにさせる。</li> <li>ペアで協力して行わせる。</li> </ul>		
<b>2 復習</b>			
○「覚えよう！(ペア基本文)」の練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>できるだけ、英文を見ないように練習させる。</li> </ul>		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> <b>表1</b> ペアで協力して表現をする。         </div>
<b>3 本時の目標を確認する。</b>			
○目標を確認する。			
【目標】 P51の内容を理解し、音読の方法を考えて音読することができる。			
<b>4 P51の内容を理解する。</b>			
○読み取りの観点を確認する。①～④  ○P71の本文を聞く。2回 (普通速度・速い速度) ○ワークシートに書く。(個人→4人班) ○内容の確認をする。(発表)	<p>●読み取りの観点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>バルーは由紀と武史をどこの国のコーナーに誘いましたか？</li> <li>由紀はカレーが好きですか？</li> <li>テーブルの上にあるものは何ですか？</li> <li>バルーと由紀はナンを注文したと思うか？ その理由は？</li> </ol> <p>★英文を聞く時に、教科書を指で確認させ、音と文字を結びつけさせる。</p> <p>・ALTとバルーと由紀になり、thisとthatを意識させることにより、内容を理解させる。</p>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>【言語活動の充実】</b> 根拠をもとに発表させる。         </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;"> <b>考1</b> 個人で考える。         </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;"> <b>考2</b> 4人班で理由とともに考える。         </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> <b>表2</b> 発表する。         </div>

5 P51 の音読の方法を考え、音読する。		
<p>○音読の方法を考える。 ① Yes, but is this curry? ほん んな気持ちか?理由は? (個人→4人班)</p>	<p>★場面をイメージさせて、音読を 考えさせる。</p>	<p>考3 個人で考える。</p>
<p><b>【言語活動の充実】</b> 根拠をもとに発表させる。</p>	<p>◆予想される生徒の発言 ・不思議な気持ち ・驚いている (日本のカレーと色が違うから) (バルーが Indian curry is a little different.と言っているから)</p>	<p>考4 4人班で理 由とともに考える。</p>
<p>B:Do you like curry, Yuki? Y:Yes, but is this curry? B:Yes, it is. Indian curry is a little different.</p>	<p>・英語の音に気をつけさせて、し っかり声を出させる。</p>	<p>表3 発表する。</p>
<p>○上記の英文を音読練習す る。 ・ALT の後について読む。 (全体→ペア読み)</p>	<p>・気持ちや状況を 表現できるよう に音読すること ができる。</p>	<p>後日音読テス ト</p>
<p>○ALT からフィリピンの食 べ物の話を聞く。</p>	<p>・食べ物の写真を見て何かわから ない場合は、ALT に対して Is this~?と聞かせる。</p>	<p>教 基本をしっ かり教える。</p>
6 本時のまとめと次時の確認をする。		
<p>○ウルトラマンライティング (3分間)</p> <p>○本時のまとめ ○自己評価の記入 ○次時の確認 ○宿題の確認</p>	<p>・意欲を持たせて書かせる。 ★be 動詞の疑問文の作り方を合 言葉で思い出させる。(教科書を見 させる。) ・目標にあった自己評価をさせる。 ・家で音読を5回以上してくるこ とを確認する。</p>	<p>考5 授業でわか かったことや疑問点 を書かせ、自己認識 をさせる。</p>

## 板書計画

<p>P51 の内容を理 解し、音読の方法 を考えて音読す ることができる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;"> <p>Wednesday July second sunny</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 90%;"> <p>This is my bag. Is this your bag?                      Yes, it is. No, it isn't.</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Smile Eye contact Good voice Nice reaction</p> </div>
--	--	---

## 検 証

### 検証の方法

- 本授業の成果を検証するために、以下に示す評価問題を作成し、実施することとした。

⑤ 次の会話文の [ ] 内の語を並べ替えて、会話文を完成させなさい。

- 1 A : Yuki, [ your / this / is ] bike?  
B : Yes, it is. I use it every day.  
A : Oh, I see.

### 検証結果

記号		解答類型	28人	%
1	○	is this your	3人	10.7%
2	△	類型1において、大文字・小文字の誤りが1か所ある。	2人	7%
3	△	類型1において、つづりの誤りが1か所ある。	0人	0%
4	×	this is your	18人	64.2%
5	×	is your this	0人	0%
6	×	this your is, your is this, your this is	2人	7%
7	×	類型1において、語順はあっているが、大文字・小文字の誤りやつづりのあやまりが2か所ある。	0人	0%
8	×	語順がまちがっており、大文字・小文字の誤りやつづりの誤りがある。	0人	0%
9	×	上記以外の解答 (is だけを書いている)	2人	7%
0	—	無解答	1人	3%

- 解答類型2  
is が大文字になっている。
- 解答類型4について  
Yuki の後のカンマを見落としていたと思われる。

### 分析・考察

- テスト返して、説明すると生徒はよくわかっていた。
- 試験では、英文全体を見ずに、[ ]内のみ見て答えた生徒が多かったため、疑問文になっていない。
- 「Yuki, 」に気づかず、Is が大文字になっている。
- be 動詞の疑問文・否定文の作り方を再度指導する。  
ひっくり返せば疑問文・not をつければ否定文
- 何度も口頭練習する。